

環境回復

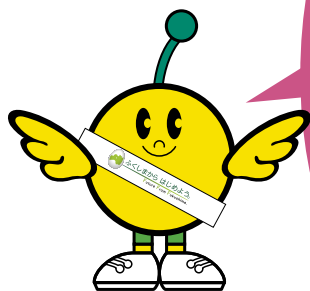
安心して住み、暮らせる 環境の回復に向けて

子どもたちの笑顔のために

県では、県民の皆さんのふるさとへの帰還や、安心して生活できる環境の確保に向け、放射性物質の除染や県内全域における環境放射能モニタリングの充実・強化を推進していきます。

また、農林水産物・飲料水・加工食品などの検査体制を強化したほか、住民が身近なところで自家消費野菜などを検査できる環境を整備するなど、安全確保に取り組んでいます。

今回は、復興計画12の重点プロジェクトの中の「環境回復プロジェクト」について紹介します。



安全・安心を磐石なものに

福島県知事 佐藤雄平



知事 メッセージ

震災からまもなく二年。本県は着実に元気を取り戻してまいりました。

一方、十五万余の方々が県内外で避難生活を余儀なくされており、また、放射線への不安や風評の払拭をはじめ、解決すべき課題も山積しております。

「一日も早くふるさとへ帰りたい」

「子どもを外でのびのび遊ばせたい」

「地元の食材をみんなでおいしく味わいたい」

そうした声に応えるため、県では、安心して生活できる環境づくりに力を注いでいます。

中でも除染は、県土再生の最重要課題です。

子どもに身近な場所の優先実施はもちろん、作業に携わる事業者の育成、技術の向上、さらには、IAEAをはじめとする世界の英知を結集し、強力に推進してまいります。

また、私たちの生活に欠かせない食についても、コメの全量全袋検査をはじめ、生産・流通・消費の各段階でしっかりと検査を行い、その結果を分かりやすく公表しています。

安全・安心は暮らしの礎。これを磐石なものとし、子どもたちの笑顔あふれる福島県を築いてまいります。

除染

ふくしまの環境回復に向けた取り組みを紹介します。



市町村の除染活動をサポート

除染はどのように進めているの？

年間追加被ばく線量が1ミリシーベルト以上の地域を「汚染状況重点調査地域」とし、指定された市町村ごとに除染実施計画を策定、地域の除染作業を進めています。また、「警戒区域」や「計画的避難区域」だった地域を「除染特別地域」とし、国主体で除染作業を実施しています。



県庁除染対策課
大室直人



を進めています。また、「警戒区域」や「計画的避難区域」だった地域を「除染特別地域」とし、国主体で除染作業を実施しています。

除染の取り組みについて紹介します

県の取り組みを教えてください

除染の推進に向けた取り組み

- 放射線や除染、仮置場などについての説明会や講習会の実施
- 除染作業に従事する作業員・監理者へ、放射線の知識や除染作業など実技の研修を実施
- 新しい除染技術の普及を支援

このような説明会などを開催しています。

◆仮置場現地視察会

住民を対象として仮置場現地視察会を開催
○仮置場の視察 ○専門家からの説明



◆除染の推進に向けた地域対話フォーラム

○放射線の健康影響や除染への不安・疑問に、専門家が回答

次回開催：2月17日(日)、いわき産業創造館にて

福島県 除染対策課 検索 ☎ 024 (521) 8317

市町村が実施する除染の状況

(平成24年11月末現在)

	計画 (A)	発注 (B)	発注率 (B/A)	実績 (C)	実績率 (C/A)
住宅 (単位：戸)	65,873	51,111	77.6%	8,908	13.5%
道路 (単位：km)	3,457	1,994	57.7%	426	12.3%
農用地 (単位：ha) (水田・畑地・樹園地・牧草地)	25,726	20,095	78.1%	12,943	50.3%
公共施設など (単位：施設) (学校・幼稚園・公園など)	3,057	3,112*	101.8%	2,424	79.3%

調査対象は汚染状況重点調査地域の指定を受けた40市町村です。計画数量は今年度までの累計であり、未公表の市町村分は含んでいません。
※除染実施計画数が未定のまま発注が進んでいる市町村があるため、計画数を上回っています。

除染についての情報を公開しています。

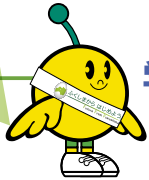
知る、考える、進めるために。

県と国では、除染の進捗状況や基礎知識、専門的なサポート情報まで、幅広い最新情報をお伝えするため、除染情報プラザを開設しています。各市町村の除染状況はこちらから…



除染情報プラザ 検索
☎ 024 (529) 5668

学校や公園など子どもの生活圏を最優先



学校

子どもたちが安全で安心して学校生活を送れることを最優先に除染を推進。学校内に子どもたちの元気な声が響いています。

▶プール開きで、明るい表情が広がる児童たち



公園



▲公園でキャッチボールをする子どもたち

福島県放射能測定マップ

県内、全国、世界で測定している放射線量などの数値をホームページで公開しています。線量ごとに色分けした点は測定場所で、その地点ごとの詳細なデータを見ることができます。学校や幼稚園、公園などの公共施設の数値を確認することができます。

福島県放射能マップ 検索



利用者の声

今までは不安で、県外に出かけていましたが、除染をしたと知り遊びに来ました。近所で遊べるようになったので良かったです(父)。



▲阿部一也さんと由奈さん(福島市)

県放射線健康リスク管理アドバイザーの高村昇氏に「食と放射線」について聞いてみました



たかむら のぼる
高村 昇氏

福島県放射線健康リスク管理アドバイザー
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 教授（医学博士）

Q. 食品からの内部被ばくが心配です。食べ続けることで健康に影響はないのでしょうか。

A. 十分に安全な基準を設定。基準値を超えた食品は流通していない。仮に1年間食べ続けたとしても健康に問題を与える数値ではない。

年間1ミリシーベルトを目安に設定された、食品中の放射性セシウムの新基準値は、国際的に見ても非常に厳しいレベルです。これは仮に、基準値いっぱいまで放射性物質を含んだ食品を、毎食1年間食べ続けた場合の内部被ばく線量を考慮して、算定された値ですので、1回や、あるいは1週間程度続けて食べたからといって、健康に影響を与えるレベルの内部被ばくをすることはありません。1ミリシーベルトという値は、健康影響が出ないように安全域を十分にとった上で設定されています。

今、基準値を超えた食品は流通しない、というシステムになっています。流通している食品は心配せずに食べていただいて結構です。県のホームページなどでかなり細かく、生産地域の食品の値が出ているので、近所からもらったもの、自家栽培などについても、お近くの地域のデータを参考にさせていただけると思います。

Q. チェルノブイリの事故後のように、これから子どもたちに甲状腺がんなどの病気が増えるのではないかという話を聞きますが？

A. チェルノブイリと違って、当初から食物の摂取制限をしたので、同じ結果にはならない。

チェルノブイリでは事故から4～5年たって、子どもの甲状腺がんが増えました。原因は、事故直後の放射性ヨウ素による内部被ばく。（放射性ヨウ素は、甲状腺に集まりやすい。半減期は短い、短期間に集中して放射線を放出し、内部被ばくする。）チェルノブイリでは事故後、食品の摂取制限をせず、流通させてしまいました。それにより、牛乳をはじめとした汚染された食品を、当時の子どもたちが摂取することとなってしまったのです。

福島県では事故直後から、基準値を超える食品については摂取ができない状況が続いています。これにより、初期の頃の内部被ばくを低減することができました。対応策が全く違うので、チェルノブイリの場合と比べて、子どもの甲状腺被ばく線量は大変低いと考えられます。

県の取り組み 食の安全確保のために

●基準値を超える食品を流通させません

県産農産物のモニタリング検査

検査結果が100ベクレル/kgを超えた品目については出荷制限され、流通していません。

▶ 検査結果

●全てのお米を検査しています

県産米の全量全袋検査

検査済みの玄米を精米したお米には検査済みシールを貼って確認できるようにしています。

▶ 検査結果



日常食のモニタリング調査を実施（平成24年6月）

県内の78人の1日分の食事に含まれる放射性物質を調査

結果 78人のうち、セシウム134が検出されたのが13人、セシウム137は26人でした。検出された放射性セシウム濃度（セシウム134とセシウム137の合計値）の最大値は1.49ベクレル/kgで、年間の被ばく線量は0.014ミリシーベルトと試算されます。この数値は、自然放射性物質（事故とは無関係に食品中に普段から含まれている）による内部被ばく線量の、70分の1程度でした。

県民健康管理調査

甲状腺検査 子どもたちの健康を長期に見守ります

- 先行検査（平成23～25年度）
震災時18歳以下の子どもの対象に現状確認のための検査
- 本格検査（平成26年度～）
対象者が20歳までは2年ごと、20歳以降は5年ごとに検査を継続

ホールボディカウンターによる内部被ばく検査の実施結果

予測実効線量（おおむね一生に体内から受けると思われる内部被ばく量）			
1ミリシーベルト未満	1ミリシーベルト	2ミリシーベルト	3ミリシーベルト
98,669人	14人	10人	2人

累計検査人数（平成23年6月～平成24年11月）98,695人

この結果を見ると、全体の99.97%にあたる方が1ミリシーベルトを下回っています。これは食事に対する制限、流通の制限、摂取の制限をしたことが反映された値だろうと思います。内部被ばくのレベルは非常に低いことがわかります。

高村先生からのメッセージ

子どもさんを持つ親が不安になるのは、大変よくわかります。不安があれば線量計などで実測し、その数字の評価（判断）をしてみましょう。分からないことは、ぜひ福島県のホームページで調べたり、窓口にご相談してみてください。

放射線に関する問い合わせ窓口 受付時間
午前8時30分～午後8時（平日）
午前8時30分～午後6時（土日祝）